

■日 時 平成 26 年 11 月 19 日 (木) 17:00~18:30

■講 師 (株) セミナー東北 顧問・専任講師 齋藤 雄一

豊臣秀吉に天下を取らせた男

戦国武将 黒田官兵衛の魅力

1. 官兵衛誕生

- ・播磨の御着城主 小寺政職の家老職・小寺(黒田)職隆の息子として生まれる。
- ・小寺姓は城主の姓を貰ったものである。幼名は万吉、17歳の初陣で官兵衛孝高と改めている
- ・父の職隆は、祖父の代からの流浪生活の影響からか、官兵衛に独特の教育を施した。
- ・「百間長屋」と名付けた長屋に、下級武士、商人、博労、職人を住ませ、官兵衛と交わらせた。
- ・黒田家は流浪生活であったが代々目薬の製造販売をしていたため財力には恵まれていた。

2. 秀吉の仲介で織田信長の許へ

- ・弱小城主にとって、何よりも大きな問題は、誰が天下を取るかの見極めであった。
- ・それが家(小寺家)の存続、生き残りに大きくかかわってくるからである。
- ・「百間長屋」「御師」の情報により官兵衛は織田信長に天下を制する勢いを感じていた
 - ・大勢の意見が「毛利」に傾いているとき、唯一反対したのが官兵衛だった。
 - ・「信長につくべし」という意見を通すと、秀吉を仲介に、自らが信長の使い役に名乗りでる。
 - ・信長は官兵衛の見識に感嘆し愛刀「圧切 長谷部」をつかわす

3. 竹中半兵衛に軍師の心得を教わる

- ・信長に味方することを決めた小寺家を毛利が5千の兵でせめて来る。
- ・官兵衛の知力と領民の協力によりわずか5百の兵でこれを粉碎。
- ・このことにより信長の信頼を勝ち取った官兵衛の心に多少のおごりが生まれる。
- ・それを指摘してくれたのが二歳違いの竹中半兵衛であった。(二人は二兵衛、両兵衛と呼ばれた)

4. 荒木村重に幽閉される

- ・天正5年(1577年)に始まった秀吉の中国地方征討は、順調な進展が見られなかった。
- ・天正6年、腹心だったはずの荒木村重が信長を裏切ったからである。
- ・これに動揺した官兵衛の主、小寺政職も毛利方に味方すると言い出す始末
- ・「村重を翻意させることが出来れば、今までどおり信長に味方する」と、政職は官兵衛につげる。
- ・単身乗込んでいった官兵衛であるが、村重に幽閉されてしまう→一年間
- ・助けられたが、両膝は曲がって立つこともできず、しらみと蚊により容貌も醜くなっていた。

5. 孫子の兵法、「戦わずして勝つ」を理想とした官兵衛

- ・秀吉の「三木城の干殺し」「鳥取城の渴殺し」「高松城の水攻め」は官兵衛の策とも言われている
- ・孫子は言う「戦争の目的は勝つことである」外交と戦略があれば、人の命を失わずにすむ。
- ・力任せの戦いを避けて、相手の作戦を読む力も官兵衛には抜群のものが備わっていた。

孫子の兵法 「彼（敵）を知り、己を知れば、百戦危うからず」

6. 中国大返し

- ・天正 10 年（1582 年）中国征討は、高松城の水攻めが成功するなどして大詰めを迎えていた。
- ・6 月 2 日早朝、明智光秀の裏切りによる「本能寺の変」勃発。織田信長自刃（49 歳）。
- ・悲報を聞いた秀吉は茫然自失、このとき官兵衛が「天下をとる好機だ」と秀吉に伝える。

「秀吉様、ご運が開けましたな、天下をお取りなさいませ」

- ・本能寺の変の知らせを受けていない毛利軍と急遽、和睦を結ぶ（高松城々主、清水宗治切腹）
- ・そこから中国大返しが始まる（2 万の兵がおよそ 200 キロを 7 日間で駆け抜ける）
- ・準備の整っていなかった明智軍はあえなく敗れる一山崎の合戦

7. 隠居願

- ・天下統一を目指す秀吉は天正 13 年（1585）弟の秀長に四国の長宗我部元親の討伐を命じる。
- ・敵兵 4 万に対し秀吉軍 13 万の大群で粉砕、戦いはわずか 2 ヶ月で終わりを告げた。
- ・官兵衛の見事な指揮の下で勝利を収めたにもかかわらず、官兵衛への恩賞はなかった。
- ・翌、天正 14 年（1586）九州征討の軍奉行を務め、豊前の主な城を落とす。
- ・巧みな情報戦により、敵の結束を切り崩した（書状を持たせて、各大名に疑心暗鬼を生み出す）
- ・九州征討の褒美として、豊前（12 万石）を賜る。小早川隆景（52 万石）、佐々成政（50 万石）
- ・秀吉の噂話を聞きつけ隠居を決意する（出る杭は抜かれる）一生涯ナンバー 2 にこだわる
- ・天正 18 年（1590 年）秀吉の天下統一の総仕上げ、小田原攻めに加わる。

8. 関が原の戦い

- ・官兵衛は「関が原の戦い」で家康の勝利と、戦いの長期化を予測。
- ・その後の大局で影響力を発揮するために九州の平定を考える一予測に反してわずか半日で東軍勝利。
- ・息子、黒田長政は勲一等の活躍、褒美に家康より筑前 52 万石を賜る。



● 黒田官兵衛 年表

西暦	年齢	主要な出来事	信長・秀吉・家康の出来事
1534			信長、誕生（官兵衛と12歳違い）
1537			秀吉、誕生（官兵衛と9歳違い）
1542			家康、誕生（官兵衛と4歳違い）
1546	1	播磨国姫路城主・小寺職隆の嫡男として誕生 幼名・万吉	信長・父・信秀の死去により家督を 相続
1559	14	母、いわ、死去。	<桶狭間の戦い>信長、今川義元を 討つ
1561	16	元服し、名を官兵衛孝高と改める	
1562	17		信長と家康、同盟を結ぶ（清洲同盟）
1567	22	家督を継ぎ、姫路城主に。主君政職の縁戚 光と結婚	信長、本拠を岐阜城に移転 妹、市を浅井長政へ嫁がせる
1568	23	嫡男・松寿丸（後の長政）誕生	
1569	24	龍野赤松軍を撃退（青山・土器山の戦い）	
1575	30	播磨が信長と毛利輝元の勢力争いに巻き込 まれ、小寺家を織田方帰順にまとめる。自ら 信長に拝謁し、小寺家が信長に味方するこ とを伝える。信長より名刀「圧切」を賜る。	<長篠の戦い>信長・家康連合軍、 武田勝頼を破る 信長、木津川の戦い毛利水軍に大敗
1577	32	信長への人質として、嫡男・松寿丸を差し出 す。中国攻めのため、秀吉に姫路城を提供。	秀吉、信長に中国地方攻略を命ぜら れ、播磨国に進攻
1578	33	織田方について主君・政職や、摂津の荒木村 重が離反。村重の説得に赴くが、有岡城に幽 閉される。帰らぬ官兵衛を信長は謀反人と疑 い、激怒。	上杉謙信 没 鉄甲船を投入し毛利水軍を撃破
1579	34	有岡城落城の際、救出される。一年間の幽閉 生活でひざが曲がったが、謀反人の汚名はそ そがれた。	上杉景勝が家督を継ぐ

1580	35	兵糧攻めで三木城を落とす。人質となっていた松寿丸が姫路に戻る。	佐久間信盛父子・林秀貞、安藤守就を相次いで追放
1581	36	鳥取城への攻撃において秀吉に兵糧攻めを献策	信長、竹生島参拝。留守を怠けた女官、僧侶を成敗
1582	37	備中高松城攻めで水攻めを献策。信長の死を悲嘆する秀吉に「中国大返し」を進言。「山崎の戦い」で明智光秀を破る	本能寺の変、明智光秀の謀反 秀吉、明智光秀を破る山崎の戦い
1583	38	このころ、キリスト教に入信	<賤ヶ岳の戦い>秀吉、柴田勝家をやぶる
1585	40	父、職隆没。四国征討の軍監を努め、讃岐・阿波を攻める。	<小牧・長久手の戦い>秀吉×徳川・織田連合軍
1586	41	九州征討の軍奉行を務め、豊前の主な城を攻める。	秀吉、豊臣姓与えられ関白になる 秀吉、島津氏を討って九州を従える
1587	42	九州征討の褒美として、豊前6群12万石の領主となる	
1588	43	中津城を居城と定める	
1589	44	家督を長政に譲る	秀吉に鶴松が誕生、後継者に指名
1590	45	秀吉の小田原攻めに加わり講和を交渉。小田原開城を実現させる	秀吉、小田原征伐、北条氏を破り天下統一を図る。
1592	47	宇喜多秀家の軍監として朝鮮へ出兵。	秀吉、朝鮮出兵
1593	48	浅野長政とともに朝鮮出兵。現地で石田三成を怒らせる。秀吉の怒りまで買い剃髪、号を如水と改める。	秀吉、再び朝鮮出兵 秀頼誕生
1598	53		秀吉没
1600	55	天下分け目の<関が原の戦い>に乘じ、九州をほぼ平定する。嫡男長政は大活躍	<関が原の戦い>東軍×西軍 世は家康の天下となる
1604	59	3月20日死去	徳川家康、江戸幕府を開く